

おいしい水をお届けして70年

津山の水道



蛇口をひねれば、いつでも使えるたっぷりの水。私たちの生活は、水と切っても切れない関係で結ばれています。

水は、飲み水だけでなく、調理、掃除や洗濯、ふる、トイレなどの家庭用として、飲食店やホテル、工場などの事業用として、学校、遊園地、防火水槽などの公共用としても使われ、あらゆる分野で幅広く利用されています。

このように、みなさんの暮らしと密接な関係がある水。津山の水道は、緑深い中国山地の山々を源とする清流を集めてつくられます。

津山で生活する人々に安心して使っていただける、おいしい水をお届けして70年。今回は、水道70年の歴史と水づくりのようすを紹介します。

水道事業のあゆみ



マスコットキャラクター「ブロックちゃん」

津山市の誕生と事業の始まり
昭和4年(1929)2月11日、

津山町、津山東町、西苦田村、二宮村、院庄村、福岡村の合併により、人口3万3、361人の津山市が誕生しました。

同年4月に行われた初めての市議会で「上水道調査規程」が可決、同じく9月議会で調査のための予算が可決され、津山の上水道布設事業が始まりました。

工事中から給水開始まで

昭和7年(1932)6月、

佐良山村大字中島(昭和16年津山市に合併)の吉井川から市内小田中の浄水場へ導水し、給水を行う工事が始まりました。工事の総事業費は78万7、800円と、当時の市の年間予算36万



地鎮祭のようす(昭和7年)

円と比較しても破格の大事業であったことがうかがえます。そして、着工から2年6か月後の昭和9年(1934)12月、全面給水を開始しました。



配管工事のようす(昭和8年)

加したほか、周辺地域から上水道の布設を求める声が高まってきました。

また、工場などからの給水申し込みにより、水の絶対量が不足したため、創設時から取水していた第1水源地を廃止し、

現在の取水口である中島嵯峨山に新しく第1水源地を建設しました。

新しく戸島、高尾皿、中島、志戸部、沼河辺の一部に給水を始めました。

第1次拡張事業

(昭和23年認可)

給水を開始して10数年が経過したことや、戦後の復興期で電力事情が悪く施設の早急な整備が必要になったことから、電力関係の設備、緩速ろ過池など、浄水場を拡充しました。

第2次拡張事業

(昭和32年認可)

人口が急速に増加したことに伴って給水量が大幅に伸び、施設の能力が限界になりました。そのため、小田中の吉井川左岸にもう一つの水源地を設け、浄水施設などの整備を行いました。

第3次拡張事業

(昭和38年認可)

社会の発展や経済の成長に伴って1人あたりの使用水量が増

図りました。

第3回変更事業

(昭和55年認可)

簡易水道の地区や未給水地区へ給水区域を広げました。

新しく種、荒神山の一部に給水を始めました。

また、市内の6か所に配水池を設置しました。

第5次拡張事業

(昭和57年認可)

津川ダム(勝北町)建設事業に参画し、新しく利用することが可能になった水量により、今後開発が予測される地域と未給水地区への給水を目的に、浄水設備を拡充しました。

第1回変更事業

(平成元年認可)

簡易水道地区の上水道への統合と、岡山県広域水道企業団からの受水を含めた事業計画を立てました。

また、津川ダムの水利権を企業団へ譲渡し、受水予定量を変更しました。

第2回変更事業

(平成10年認可)

津山総合流通センターの完成による給水区域の拡大など、新規需要に対応しました。

現在、1日平均約3万5、600トンの水を供給しています。

津山の水道水は「おいしい」

水にはいろいろな成分が含まれているため、その量やバランスによって味は変化します。厚生省（現在は厚生労働省）の「おいしい水研究会が発表した「おいしい水」の要件に市水道水をあてはめてみましょう。

項目	おいしい水の要件	水質基準	小田中浄水場系 (採水地:上田邑)	草加部浄水場系 (採水地:山方)
蒸発残留物	30~200mg/ℓ	500mg/ℓ以下	49mg/ℓ	53mg/ℓ
硬度	10~100mg/ℓ	300mg/ℓ以下	20mg/ℓ	19mg/ℓ
遊離炭酸	3~30mg/ℓ	20mg/ℓ以下 (目標値)	5.7mg/ℓ	4.4mg/ℓ
有機物など	3mg/ℓ以下	10mg/ℓ以下	1.5mg/ℓ	2.5mg/ℓ
臭気度	3以下	3以下 (目標値)	0	0
残留塩素	0.4mg/ℓ以下	0.1mg/ℓ以上	0.6mg/ℓ	0.5mg/ℓ
水温	20℃以下	—	18.0℃	17.0℃

- 蒸発残留物**：適度に含まれるとまろやかな味になり、多くなると渋みや苦みを感じます。鉄やマンガンのような物質が含まれると、俗に「金気（かなげ）」といわれる異臭味を与えます
- 硬度**：カルシウムやマグネシウム分のことで、ミネラルの主成分です。少ない水はくせがなく、多すぎると刺激があります
- 遊離炭酸**：水に溶けた炭酸ガスのことで、適度に含むと清涼感を与えます
- 有機物など**：水中の有機物濃度で、多く含むと「かび臭」を感じます
- 臭気度**：「かび臭」や「どぶ臭」などがあると不快感を与えます
- 残留塩素**：消毒用に使用された塩素が水中に残った量です（水道水は必ず塩素で消毒しなければなりません）。濃度が高いと臭気を感じます
- 水温**：水のおいしさを左右する大きな要因になります。とくに10~15℃の水は、最も清涼感のあるおいしさを感じさせるといわれています

このように津山市の水道水は、おいしい水の要件をほぼ満たしています。



水質検査(草加部浄水場)

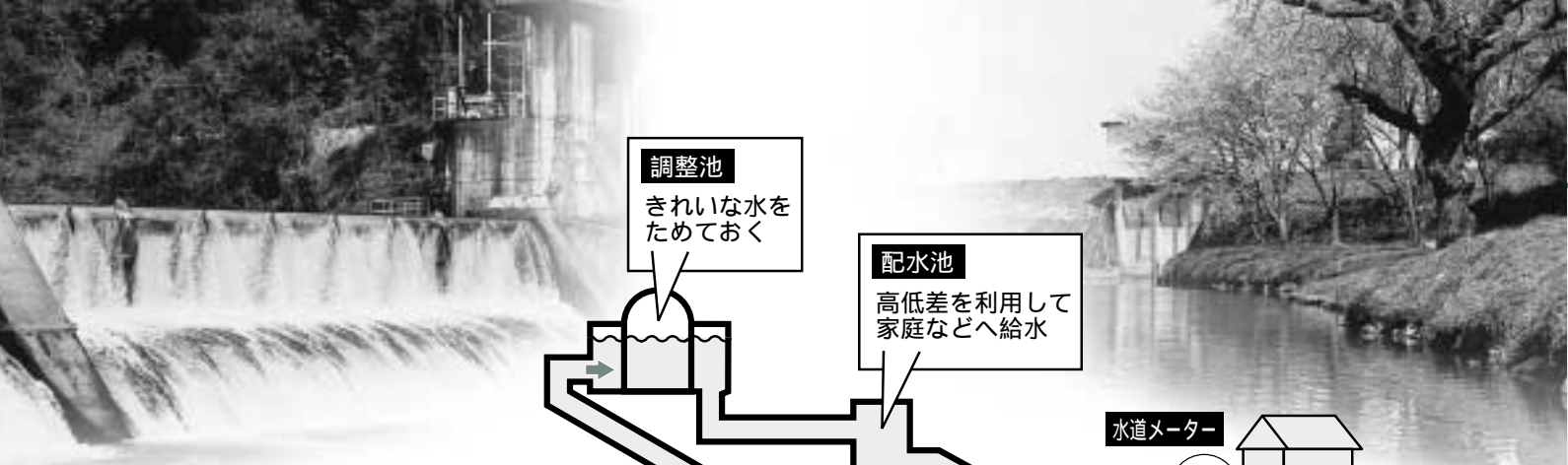
水質基準と管理
水質基準は、水道水の安全性と信頼性を確保するために、人が一生にわたり連続して摂取しても健康に影響がない水準をもとにして設定されています。みなさんに提供する水道水は水道法によって定められたいくつもの水質基準をクリアした安全な水です。浄水場では、常に安心して使っていたら水を提供するため、水質自動監視装置を設置し、水を連続監視しています。さらに、水質検査を定期的に行い、その結果はホームページなどでお知らせしています。

安心できる水を安定して提供するために

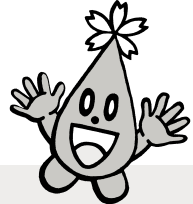
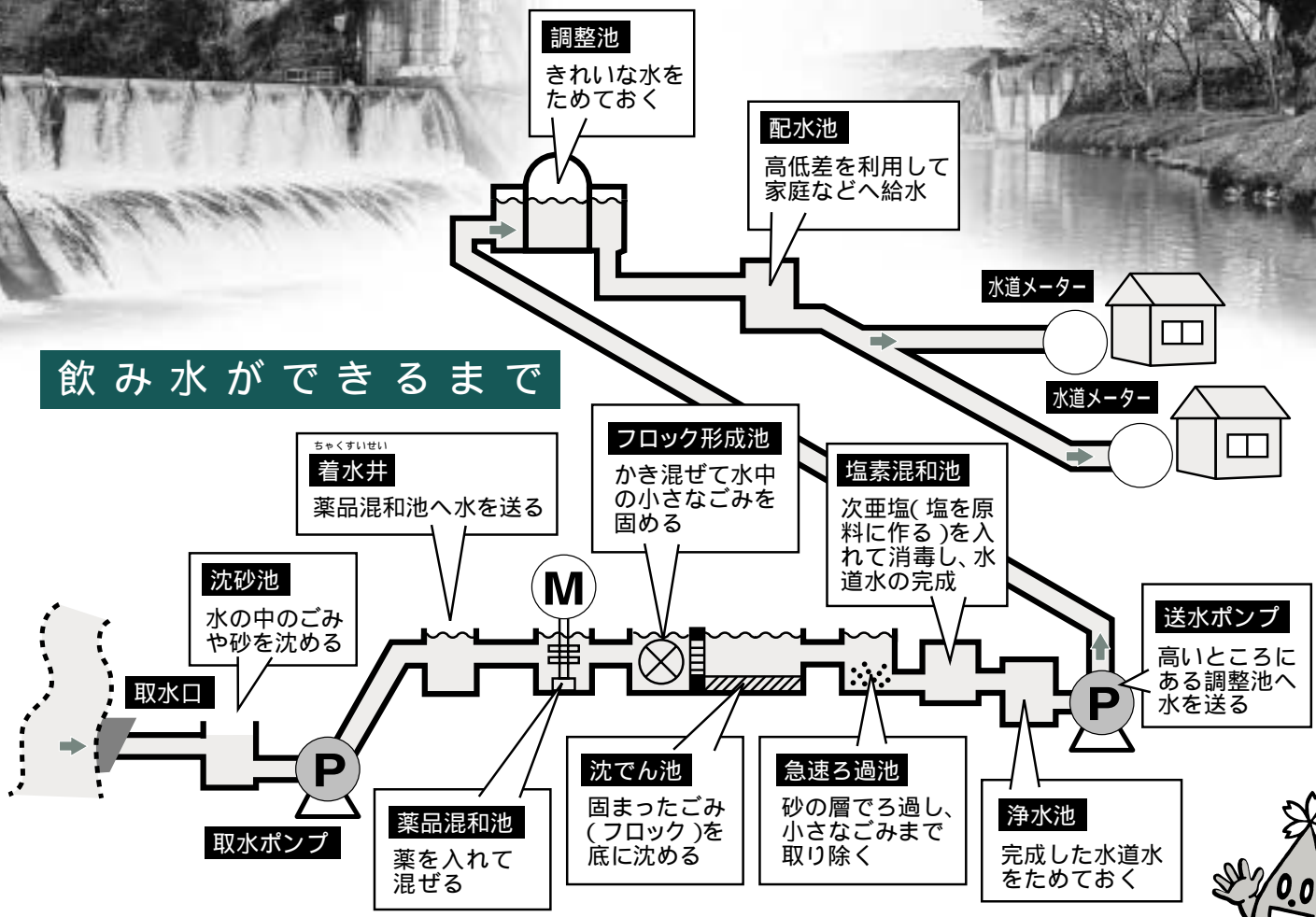


耐震管布設工事(小田中)

緊急時の対策も行っています
市内には、小田中と草加部に浄水場があり、万一の事態に備えて、おたがいに水を融通し合うことができるように工事を進めています。この工事は、2つの浄水場間約10キロメートルを耐震管で結び、災害に強く配水能力を高めるものです。さらに、緊急時の水を確保する一宮配水池の築造工事なども行っています。また、地中に埋設されている配管の図面情報やさまざまなデータの一元管理を行うため、管网管理システムを取り入れています。このシステムを活用することにより、漏水や配管破裂など事故への対応や、災害時の支援に必要な情報などが迅速に把握できます。



飲み水ができるまで



環境へ配慮した水づくりのために

使われる水の量は、1日の中でも時間帯によって大きく変動します。そこで、貯水能力を高めることによって、時間帯ごとに作る水の量をできるだけ平均にし、使用する電力の平準化を図っています。

また、水中のごみを固めたフロックやろ過段階で発生した汚泥は、園芸用のたい肥などにリサイクルされています。

さらに、配水池からの落差エネルギーを利用した小水力発電の検討も行っています。

使い始めの水は飲み水以外に

朝一番に水道を使うときや、旅行などでしばらく留守にしていた場合など、長時間水道を使わなかった後の使い始めの水は給水管(道路に埋められた配水管)に長時間滞留するため、水中の塩素濃度が低くなって消毒の効果は薄れてしまいます。また鉛の管を使っている家庭では、微量の鉛が溶け出す場合があります。

通常使っている状態ではほとんど問題はありませんが、念のためバケツ1から2杯程度を洗濯や掃除など飲み水以外の用途に使ってください。

水道週間行事のお知らせ
 とき 6月6日(日)午前10時〜
 ところ アルネ・津山 エントランス広場
 内容 きき水大会、抽選会など
 参加費 無料
 問い合わせ先 市水道局工務課
 回 32 2107へ



私たちの生活の中で、1日として欠かせない水。市水道局では、これからも吉井川・加茂川のきれいな水資源を大切に、「津山の水はおいしい」と言い続けていただけるように安心でおいしい水づくりに努めます。

津山の水道についての情報はホームページ <http://www.city.tsuyama.okayama.jp/suidou/index.htm> をご覧ください。
 水道料金についてのお問い合わせは、市水道局業務課回32 2105、水道工事については、同務課回32 2108へお問い合わせください。